

2023 年度 (令和 5 年) 自己評価結果公表シート

学校法人今村学園
幼保連携型認定こども園
いまむらこどもえん
小規模保育園 necco きたその
小規模保育園 necco たかつき

園の概要

本園は 1933 年～2014 年度まで 82 年間現在地で学校法人今村学園 高槻幼稚園として、保育・教育を進め、園舎全面改築を経て 2015 年 4 月より「幼保連携型認定こども園いまむらこどもえん」として再発足した。

園の理念のもと、乳児は育児担当保育により、保育者との愛着関係を結び子どもの毎日の生活の安定と安心を大切にしている。幼児については自然に触れ、様々な感覚を使って直接体験すること、物事を敏感に感じ取ること、表現することを通し、「自分に命があること、それは何物にも代えがたい大切なこと。」ということを実感できるようにと考えている。またお互いの存在を尊重し仲間と共に様々なものやことを分かち合い、共に育ち合い、喜びあうことを大切にしている。

本園の他 2020 年 4 月に小規模保育園 necco きたその、2022 年 4 月小規模保育園 necco たかつきが開園し、0 歳児から 2 歳児、各 19 名の保育を進めている。

<本園の理念>

乳幼児期の保育・教育は、小学校の予備ではありません。教えるのではなく育てるのです。

適切な養護を加え、伸び伸びとした生活を与えること、無理のない躰け方によって良い習慣を体得させ、人格教育の素地を作ります。

将来に渡り、社会の中で子どもがその時々に分らしく幸せに生きることができるよう、愛情をもって目の前の子どもの存在そのものを受け止め、理解しようとする。

潜在的に持っている個性を生き生きと引き出しながら、子どもたちが平和や自然、環境を守り他の人々や生き物と共によりよく生きるための心や行動を模索できるよう、それぞれの子どもをエンパワーする。(子ども自身がこうありたい、そうしたいと願うことが出来るよう援助する

➡無理のない躰け方)

<本園の保育・教育目標>

生きること・学ぶことの根っこを育てる。

今、ここにいるという存在を十分認められ、愛されていることを実感し、自分を信じる心、人を信じる心、人を愛する心(根っこ)が十分育ち、安心して自分らしく存在することが出来るよう援助するならば、自分の命も他者の命も等しく大切であるという自覚を持つ人間となると考える。(めざす子ども像)

<めざす子ども像>

いのちを大切にする子ども

人は一人で生きてゆくことが出来ない。『私は私』であると同時に『私は私たち』でもある。

自らの命の大切さを実感する経験をする中で、自分のためだけではなく、全ての命の大切さを知り、色々なものを分け合って共に喜びあう心を持つ人間の萌芽を育てたい。

本年度重点的に取り組む目標・計画

- (1) 各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る
- (2) 保護者間、保護者と職員との連携強化
- (3) 園庭整備・植栽、田畠・里山活動などを中心に、環境を整え、自然に触れる機会を増やし、子ども・職員・保護者が、いのち・平和・環境を大切にしたい、という意識を持つことが出来るよう働きかける。
- (4) 幼児異年齢ホームクラス運営上の研究・子どもたちの姿の振り返りの機会を持つ
- (5) 防犯・防災・安全対策強化、周知
- (6) 創立 90 周年目に入り、これまでの歴史や保育・教育の流れについて様々な形で振り返り、記録する。

評価項目別の達成および課題状況

評価項目	達成状況及び課題
(1) 各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る	<p>対面・オンラインなど様々な分野での研修に参加する他、大阪府私立幼稚園連盟第 30 次プロジェクト、OPARK の研究会、ECEQ コーディネーターとしての活動等積極的に参加、また、他の施設と交流を図り、多岐にわたるご指導を得て、現在の保育内容の振り返りをすることができた。</p> <p>食育・保育・事務・営繕等各部門の会議を随時持った。</p> <p>乳児・幼児全体の会議の他、職員全体研修を年 3 回実施、また実情に合わせて迅速に緊急の全体会議を招集するなどし、現状と問題点・改善点、日々の保育について全体で共有すべき事柄を認識する機会とした。</p> <p>5 者会議として理事長・園長・乳児主幹・幼児主幹の会議を週 1 回のペースで行い、協議の内容と結果を各学年のチーフ会議、クラス会議等を通じて周知した。</p> <p>献立会議、離乳食会議・アレルギー会議・乳児チーフ会議・幼児チーフ会議・クラス会議・学年会議・乳幼合同会議・乳児 3 施設合同会議・子育て支援会議、朝のミーティングでの情報交換等各種会議において園全体の現状と問題点、改善点、確認事項について周知するよう努めた。</p> <p>今年度は乳児部門、幼児部門の合同の会議を持ち 0 歳から 5 歳の子どもの育ちの道筋の理解、お互いの連携について話し合う機会を持ち、改めて相互理解を深めることができたが、さらに同法人施設間の相互理解、0～5 歳の育ちの理解に努めたい。</p>
(2) 保護者間、保護者と職員との連携強化	<p>5 月以降の令和 5 年 5 月 8 日から「5 類感染症」に移行し、コロナ禍という特殊な環境も和らいだ。各種行事への出席人数などの制限もなくなり様々な園の企画に積極的に保護者の方々に参加していただくことが出来た。幼児クラスの行事の他、今村学園全体の企画として『いまむらファミリーの集い』と称し、様々なワークショップや講演会、給食の試食会などに、多数参加していただいた。</p> <p>保護者の方々の中から有志企画として独自の企画も生まれ、次年度実施予定である。新しい形の保護者同士の繋がりのおかげになると考えるため、他の保護者の理解を得ながら、適宜支援をしてゆ</p>

	<p>きたい。</p> <p>今後も子どもを真ん中に丁寧に繋がり合うことを大切に、共に子どもの心身を育てていく、という意識を持ち、誠意をもって保護者の方々に対応したい。</p>
<p>(3) 園庭整備・植栽、田畠・里山活動などを中心に、環境を整え、自然に触れる機会を増やし、子ども・職員・保護者が、いのち・平和・環境を大切にしたい、という意識を持つことが出来るよう働きかける。</p>	<p>乳児クラスは四季折々の花々や野菜を育てるなど環境の整備に努めた。また朝夕に少人数で園周辺、安満遺跡公園、高槻城公園、上宮天満宮などへ徒歩で散歩に出かけ、歩くこと、行く先々での様々な出会いを大切にしたい。また2歳児では、マップを作り「どんぐりがあるから、どこどこに行きたい」などと、行きたいところを話し合いで決めることも出来るようになった。</p> <p>幼児クラスは例年と同じく、原の田んぼ、畠、園内の畠は、子どもたちの話し合いにより、クラスごとにどのような作物を栽培するかを決定した。様々な感覚を使って栽培する中での気づきを言葉や、絵などで表現し、栽培の大変さや収穫の喜び、また、植物にも「いのち」や「きもち」があることを感じるなど様々な実感を伴った、心に残る経験となった。</p> <p>また収穫後もどのように食べるかなど、様々なことを話し合いで進めた。おいしくいただき、次の春に向けて畠の準備をするなど、季節が巡っていることを実感する経験となっている。</p> <p>年長児は前年度から計画的に作物を育て、料理をして食べる経験を通し、子どもたちが仲間と協力して、身体を使い、様々な経験をした。すぐに結果を求めず、長い過程を経て実感する活動の重要性を改めて認識すると共に、子どもたちが見通しを持つことができ、安心して活動に参加できるよう配慮する必要があると考える。</p> <p>栽培のタイムスケジュールを逃さないように作物の季節カレンダーを廊下に掲示し、見通しを持った活動につなげることが出来た。保育者はさらに具体的な栽培の知恵や知識を得て、より豊かな活動へとつなげる必要がある。</p> <p>摂津峡入り口付近の山林をお借りし子どもたちの活動場所として利用できるよう、整備を始めることとなったが、現在はまだ実施されていない。安全性を確かめ少しずつ進めていきたい。</p> <p>乳児幼児とも園外に出かける際の安全確保に引き続き努めたい。</p>
<p>(4) 幼児異年齢ホームクラス運営上の研究・子どもたちの姿の振り返りの機会を持つ</p>	<p>3年目となった異年齢ホームクラスでの暮らしは、さらに落ち着きを見せ、子どもたちそれぞれの自由な意見を表出することが出来るよう配慮しながら、話し合いにより毎日の生活を進めてきた。</p> <p>異年齢3年目の年長児のみならず年中・年少児も自分の意見を持ち、活動に参加した。</p> <p>その子どもの姿を活かしてゆくためにこまめにクラス会議や学年会議を持ち、月案も、動いてゆく姿をWEB図で予想し、記録し、子どもたちの活動が豊かに展開するよう環境を整えた。</p> <p>徐々にクラス中心の取り組みが『遊び』や『活動』中心の取り組みへと変わってゆく可能性が出てきたため今後は安全を確保しつつ情報を共有し、クラス間の連携や交流を強化し、遊びや学びの連動</p>

	がスムーズに進むよう各クラスの職員が子どもたちの活動の進捗や興味を定期的に共有する必要がある。
(5) 防犯・防災・安全対策強化、周知	<p>避難訓練は責任者を決めて計画し、月 1 回行い、子どもたちの避難誘導・各職員の動きについて確認した。子どもたちの『自分の大切なのち』『大切な心と身体』を守ることにつき、繰り返し伝える必要がある。子どもの命を守るため事故を未然に防ぐため、園庭での見守りについてもエリアを分けて巡回することなどを周知した。</p> <p>大きなアクシデントやその後のケアについては迅速に対応し、安全対策の強化、および職員全員への周知は即時に行うこと、情報を常に共有することを心掛けた。今後も安全な環境の提供や事故を未然に防ぐことに誠心誠意注力したい。</p>
(6) 創立 90 周年目に入り、これまでの歴史や保育・教育の流れについて様々な形で振り返り、記録する。	<p>全体研修など折に触れて、園の歴史や理念の重要な部分を何度も学習し、その展開の仕方について確認をした。そのベースに支えられ、過程を大切に、時間をかけて、様々なことを試したり、失敗したり、工夫したりできる活動を保障し、実施することが出来た。結果を急がず育ち合うことのできる保育の充実をさらに進めたい。</p> <p>また、90 周年を機に一年を通しての現在の主な活動や、保育者の思いについて、映像で記録しており、ドキュメンタリーとしてまとめることとなっている。90 周年の現在の姿を留めておくことにより市民の方々に対しても弊学園保育への理解を深めたい。</p>

<運営・事業の推進>

いまむらこどもえんの乳児保育部門と同様、小規模保育園 necco たかつきおよび小規模保育園 necco きたそのは 3 園がよく連携、交流し、順調な運営を実施することが出来た。

園の理念、保育・教育目標、めざす子ども像、保育教育方針について、引き続き読み解き、それぞれの内容や深い意味、関係性について全職員に周知し、園の理念の現在地を確かめながら保育を展開していった。

また地域の方々のご協力とご理解を得ながら、里山での活動の充実を図った。

<研修>

大阪府私立幼稚園連盟の研修に参加する、高槻市私立幼稚園協力会主任会（ももの会）主催、様々な団体主催の研修など各部門が研修に積極的に参加し、フィードバックするなど保育内容の充実に役立っている。

<保育・教育内容>

乳児クラスにおいては、昨年度に引き続き、チーフ会議、3 施設合同の乳児会議の充実、研修に積極的に参加するなど研鑽に努めた。子どもの安心安全をはかり、穏やかな雰囲気の中で保育を進めるためにすべきこと、必要ないことについて保育者間で随時話し合い、考えながら丁寧に進めていくことが出来た。

幼児は異年齢クラス運営が 3 年目となり、子どもの興味に合わせ、また実情に合わせ、より自由な活動を展開することができた。

異年齢保育の意義として、「縦の人間関係を作ることで、年長者から学ぶ、年少者を助けるといった関係を育てるといふ『異年齢』を強調した意義」と「同じ空間に多様な発達・多様な興味・関心の子どもたちが集まることで集団を多様にし、子どもたちが多様性を当たり前と受け止め、多様な人と共に生きるセンスを身に付けるという意義」という両面があり、異年齢保育を導入している園によってこの両者のウエイトが少しずつ変わると考えられる。----と 2021 年度、施設評価委員の方からのご示唆があり、より一人ひとりの違いをよく感じ

合い、ぶつかり合いながら、理解を深めていく、という過程に重きを置いて保育を進めてきた。

<安全への取り組み>

防犯・防災対策について、避難訓練ごとに反省点を確認している。

ヒヤリハットや重大な事故・怪我等については、当日すぐか翌日には臨時の全体職員会議を開き、全職員で原因や今後の対策について話し合い、対応の見直しやマニュアル強化を図った。

緊張感を皆で共有し続けながら保育にあたり、安全確保に注力していきたい。

<子育て支援・地域連携>

保護者に対しては、月1回臨床心理士によるキンダーカウンセリングをはじめ、個人懇談、また、気になることがあれば、すぐに個々に個人懇談の時間を設けている。丁寧に対応することで、子どもを保護者と共に見守っていくという関係の構築に努めた。

地域の子育て支援については、まめっちょ（火曜日・自由参加）を定期的実施し、子育て相談なども随時受け付けた。

<まとめ>

乳児は、丁寧に個々の成長を愛情を持って見守り、心配や喜びを保護者の方々と共有することが大切であり、保護者ともきめ細かく話し合い、支援することが出来た。少数ながら布おむつの使用について、疑問を持たれたり、あまりメリットが感じられないという意見があることについて、愛着関係を結ぶことの大切さや、環境保全に少しでも寄与できるようにと考えていることなど、改めて丁寧な説明が必要と考える。

幼児クラスにおいては一人ひとりの子どもの存在をより大切に、多様な人間関係を結ぶことを重要と考えてきた。どうすれば理解し合い、一緒に生きてゆけるか、子ども同士話し合うこと、保育者もきめ細かく一人ひとりと対話すること、活動の結果だけが最重要ではなく、過程で悩み、失敗し、やり直し、繰り返し、興味を多方向へ繋げ、広げてゆく、そして実感を伴った一つの結果へと繋がってゆく、という問題解決型の活動を展開することに注力した。保護者の皆さまへの日々の発信について、今日はこれをした、今日はこんな結果が出た、と簡単に報告ができることばかりではなく、そのために、『その日の活動の内容がホワイトボードに一行だけ書かれている日も多く、子どもがどのように過ごしたかわかるすべがありません。』などの保護者アンケートのご意見に繋がったのではないかと考える。発信のポイントや配信の方法などを検討したい。

<学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 他>

- (1) 各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る
- (2) 保護者間、保護者と職員との連携強化
- (3) 園庭整備・植栽、田畠・里山活動などを中心に、環境を整え、自然に触れる機会を増やし、子ども・職員・保護者が、いのち・平和・環境を大切にしたい、という意識を持つことが出来るよう働きかける。
- (4) 幼児異年齢ホームクラス運営上の研究・子どもたちの姿の振り返りの機会を持つ
- (5) 防犯・防災・安全対策強化、周知
- (6) 創立90周年目に入り、これまでの歴史や保育・教育の流れについて様々な形で振り返り、記録する。
等、今年度の計画の実施については概ね良好であった。

<今後重点的に取り組む目標・計画>

- (1) 各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る
- (2) 保護者間、保護者と職員との連携強化、質の向上を図る。
- (3) 園庭整備・植栽、田畠・里山活動の拠点整備などを中心に各所の環境を整え、自然に触れる機会の質の向

上を図る。

- (4) 幼児異年齢ホームクラス運営上の研究・環境の整備・進化。
- (5) 保護者間のコミュニティ醸成、交流の促進
- (6) 防犯・防災・安全対策強化、周知

<改善点および目標の達成時期と方法>

一年を通じ、

- ・保育内容、運営方法、などへの理解を深めることが出来るよう、発信方法の研究、具体的な強化。
- ・プロジェクトチームによる、さらなる保育の質の改善に取り組む。
- ・幼児異年齢保育の重点目標として『交流』、『遊び環境の充実』を挙げ、着実に取り組んでゆく。
- ・保育の安全確保、不審者対策、地震、水害、ゲリラ豪雨、感染症について等に対する対策を見直し、強化する。

<施設評価委員による評価、ご意見>

- いまむらこどもえんのアンケートの回答では、「まったくそう思わない」の回答がどの設問にも必ずあり気になりました。回答として極端過ぎる意見だと感じるものもあり、園に対して不満をあらわにされる方がいらっしやるのかと大変気になりました。
- いまむらファミリーの活動は好評ですね。保護者同士の交流が出来て良かった事を挙げておられる声が多く、保護者会など自主的な活動に繋がれば良いと感じます。
- 「子どもたちの安全性に不安を感じる事が少し多いです。…」との意見がありました。子どもの安全面などは、基本的には性善説の上で運用がなされている事が多いと思いますが、子どもが被害にあわない様にしてあげて欲しいです。
- 「お友達と一緒に文字、数字、英語に触れる事ができたら…」「小学校に繋がる学びを入れて欲しい」「子どもが書いた文字が鏡文字でもそのまま」など、今村学園の理念をご存じない方がいらっしやるのだと思いました。どうやったら伝わるのでしょうか。
- 園での活動をもっと知らせて欲しいとの意見が目立った様に思います。ホワイトボードに記す運用も担当者によって内容が浅かったり、先生によってもばらつきがあるのかと思います。沢山の事をこなさないといけない先生方にとって、あれもこれもは無理なのかもしれませんが。
- 保護者アンケートを読ませていただき、必要経費についてももう少し保護者の理解を得る努力が必要ではと思いました。具体的記述欄にも、いくつか不満が書かれていました。保育内容については満足して下さっている方が多いので、経費について、もう少し理解が深まるような説明をと思います。
- 保育バスの園児の降ろし忘れ対策、不審者対策など安全管理について強化を図られたい。
- 気になっているのは登園、退園時の保護者の送り迎えについてです。登園、迎え時に自家用車を園の前の道路に止めて乗り降りする保護者が多いです。園では控えるようにアナウンスしているかと思いますが、守れていないのが現状です。園の近くの道路で路駐して車から乗り降りするのは、近所の住民の皆さんに対してもご迷惑をおかけしていると思います。それ以上に道路での乗り降りは、危険なことがいっぱいです。この行為で、車の死角に入った子どもが車に接触する危険性があります。園で車を道路に止めて乗り降りを控え

るように言っているにはこの危険性を避けたいが為だと思います。車で送迎する保護者はそのあたりを考えていないのかもしれませんが。

ちょっと考えればわかると思うのですが、安易に考えている保護者が多いと思っています。自分だけがよければ…と思っている保護者に対する対策も必要かと思っています。園に通う子どもさんのことを思い、意見させていただきました。

■歌とリズムとろうどくの会、卒園式に出席し子どもたちの様子を実際に見て、また理事長の祝辞の中でも「子どもたちに疑問を持たせ、目標を見つけさせ、目標達成までの過程を調べさせ、目標を達成させること」を大切にしていることをうかがい、達成できた時、子どもたちが喜び、感動している様子が目に浮かぶようです。こうした成功体験の積み重ねとその過程を重視することによって子どもたちに生きる力が育まれていくものと思います。

■職員の目標管理シート6名分を読ませていただきましたが、丁寧に取り組んでおられることを確認しました。

■保護者アンケートでは昨年度と同様におおむね良好な回答が多かったが、記述の中には、日常の保育・教育活動の内容、子どもたちの活動の様子の可視化の不足、保育者と保護者のコミュニケーション不足等を散見しました。金銭面での不満を述べている保護者等について、様々な機会や機能を使って丁寧に説明を繰り返すことが必要だと思いました。

■全体的に、子どもが楽しく過ごしている事に感謝や、子どもの成長を優しく見守り、個性を尊重してくれていて、いつも感謝していると言われる保護者の方も沢山いらして、良かったと思います。

<財務状況> 監査法人の監査を受け妥当であると認められた。